

アグアスだより

2014年2月号

「体力づくり」の推進

「分析・診断・処方・治療」モデル、この言葉を私に教えてくれたのは、東工大の坂元教授（教育工学）でした。次のような内容です。医師は来院した患者に対して、まず症状を聞き、検査をして健康状態を分析し、その結果をもとに”風邪”などの病気の診断を下します。次に、「薬を服用して安静にすること」などの処方を示します。このときに、処方薬を出す医師もいます。そして、「3日後に来てください」などといって処方の結果が治療に結びついているかを見とどけようとします。これを教育に応用しようと坂元教授は考えたのです。まず子どもの実態を調査する。次に、調査にもとづく課題を把握する。そして、問題点があったなら解決策を考える。最後に、問題が解決したかどうかを確認する。当たり前すぎることですが、学校によっては実態調査をやって、それで終わりというところも多いのです。病院でいえば、「風邪ですね。それではさようなら」ということと同じです。そのような医師がいないのと同様に、学校も、実態調査を問題解決まで結びつけなければなりません。

現在、学校では、体力づくりを目的に、短縄跳び、長縄飛び、早朝のランニングの取り組みが行われています。短縄跳び、長縄跳び、ランニングは子どもたちの遊びに、ブームを巻き起こしました。教師が指示しなくても、休み時間に縄跳びをしている子や、ランニングをしている子を見かけます。最近、縄跳び板が校庭に

2台置かれ、今まで苦手だった子までがやり始めました。縄跳び板を使うと、板がクッションになって、ジャンプ力がつき、苦手な子でもうまく跳べるのです。また、上手な子は三重跳びに挑戦するなど、新たな目標ができます。現在取り組んでいる早朝マラソンは、校庭を回った周数でカードに色をぬるシステムになっています。小学生などでは、もうマラソンカードが終わってしまった子までいます。さらに、早朝マラソンには「パルケマラソン」という目標まであります。隣の公園を借り切って、マラソン大会をしようという計画です。

この取り組みは、体育部が推進してくれましたが、先の「分析・診断・処方・治療」モデルをセオリー通りになぞったものです。まず、「体力テスト」の分析結果を受けて、子どもたちの体力不足が明らかになりました（分析）。その原因は、子どもたちの学校や家庭での運動不足にあるのではないかと推測しました（診断）。体育集会を計画して動機づけ、子どもたちに短縄跳びや長縄跳びを休み時間や家庭でやるよう推奨しました。ご家庭の協力もお願いしました（処方）。さらに、短縄・長縄という単調な運動では飽きることが予想されたので、早朝マラソンを取り入れることを計画しました。最後に、「体力テスト」を再測定して、子どもたちの体力の回復の度合いを調べました（治療）。以上の流れです。ちなみに、早朝マラソンのアイデアは、チリ国“サンティアゴ日本人学校”の早朝15分（毎日）の体力づくりを参考にしました。短縄跳びやランニングが、子どもたちの遊びに定着したことは嬉しい誤算でした。こ

うした積極的な取り組みをすると、学校では必ずよい「副産物」が生まれるものです。そこが病院と学校の違うところです。ご家庭には、年度当初に予定していなかった「体力づくり」への取り組みにご協力いただき、大変感謝しています。学校は、こうした児童生徒の実態に応じて、早急に対処しなければならないことがあります。教育課程の弾力的な運用です。先のモデルでいうと、緊急病棟に運ばれた患者がいたなら、医師は「それは計画にないから治療できない」などといわないでしょう。それと同じです。

さて、昨年の「全国体力テスト」で、全国上位になった県はどこかご存じでしょうか。小学校では福井県が1位。中学校でも福井県が2位という結果でした（文科省発表）。福井県のこの成績は、体力テスト開始以来5回連続ですので、もはや定着しているといった観があります。ところが、福井県は、「全国学力テスト」でも常に1位か2位を維持している県でもあります。この福井県の「体力」と「学力」の相関は簡単には見過ごせません。筑波大学の西嶋尚彦教授（健康体力学）は「気力、体力が充実している子どもは、勉強もスポーツもがんばるので、いずれの成績もよくなる」といいます。実は、過去、イギリスでも、学力の低下が社会問題になったことがあります。このとき、政府は、体育のモデル校の成績が上がっていることに気づき、学力と体力の相関関係にいち早く注目して、体育振興政策を導入した経緯があります。

運動をよくする子は、勉強を下支えする体力があって、勉強時間も多く、早起きです。福井県や秋田県は、小・中学生の持久力と、がまん強さがぬきんでているといえます。さらに、最近の学校別調査では、学力偏差値の高い高校ほど、部活動に熱心なことがわかっ

ています。先日、公立高校で、選抜高校野球出場が決まった「都立小山台高校」は、東京都内でも有数の進学校です。高校を持ち出すまでもありません。海外で仕事をされている保護者の方々は、日本とは異なる環境下で、困難を克服しながら仕事を遂行する高い能力を有しています。一方、そうした方で、「体力」のない人を、私は見たことがありません。ソフトボール大会が証明したように、アグアス駐在の方々は、みな文武両道でタフなのです。「体力」が「学力」を支える、まさに好例と

いっていいのではないのでしょうか。「テレビを止めて外遊び」。北海道・別海町は、このスローガンを掲げて、子どもたちの体力・学力の改善に取り組み、子どもの体調を好転させ、学力・体力を飛躍的に向上させることに成功しました。本校もまた、「分析・診断・処方・治療」モデルを有効に生かして、「体力づくり」「学力づくり」に取り組んでいく考えです。

※もう一つの要素として「生活習慣」がありますが、余白がなくなったので、別に述べることにします。

2月行事予定

- 3日（月）祝日
 - 4日（火）振替休日
 - 8日（土）日本祭前日準備
 - 9日（日）日本祭
 - 10日（月）振替休日
 - 14日（金）PTA総会
 - 17日・18日 中学部学年末テスト
 - 21日（金）新一年体験入学
- 《平成26年度入学式 4月10日（木）》